

乳腺症の診断と治療

乳腺症の症状としてよく認められるのは乳房の硬結、痛みであり、時には乳頭異常分泌もあります。乳腺症は1つの疾患単位ではなく、成熟女性乳腺のある一時期の状態を表していると考えられることもあります。その中で乳腺症とがんの関係ですが、乳腺症の中で異型過形成(異型乳管過形成と異型小葉過形成がある)があり、その異型過形成を有する女性では10~15年間で浸潤がんが約10%に発生する可能性も示唆されています。

診断:

触診上は両側とも同様の腫瘤、硬結を触知することが多いです。時にがんと紛らわしいこともあります。疼痛は硬結部に一致して認められることが多く、月経前に増強し、月経開始とともに軽減することが多いです。マンモグラフィでは一般的に細かい綿片をばら撒いたようなびまん性の淡い陰影を呈することが多く、嚢胞が併存する場合は円形、辺縁整の腫瘤として見られます。超音波では一般的に「豹紋状様エコー」といわれるように小斑状の低エコー域が散在します。

治療:

乳腺症そのものが治療の対象となることは少ないですが、時にはがんと鑑別も困難な場合があり、病理検索が行われることがあります。